

平成 26 年度 第 3 回 石狩市文化財保護審議会 議事録

■日時：平成 27 年 2 月 24 日（火）13:30-15:00

■会場：石狩市民図書館視聴覚ホール

■出席者

石狩市文化財保護審議会委員

- ・村山耀一（会長）
- ・百瀬響（副会長）
- ・加藤和子
- ・菅原晴美
- ・宮野裕子

事務局

- ・百井宏己（生涯学習部長）
- ・工藤義衛（文化財課長）
- ・志賀健司（主査・学芸員）
- ・荒山千恵（主任・学芸員）

■欠席委員

- ・小杉康
- ・鈴木明彦
- ・三浦泰之

■傍聴者

なし

■議事

1. 会長あいさつ（省略）

2. 報告

（1）平成 26 年度文化財関係事業について

（事務局より報告。内容は配布資料を参照）

菅原：学校（花川北中学校、紅南小学校）への出張授業では、子どもたちの反応はどうであったか、小学校と中学校で違いはあったか。

荒山：グループ分けして観察してもらったが、実物を見るというのはなかなかない機会だったようで、グループで活発に議論していた。気づいたこと、不思議なことなど感想に書かれていた。遺跡に対して興味関心を高めてくれたようだ。紅南小学校は今回のテーマである石狩紅葉山 49 号遺跡に隣接しているので、非常にリアルな感動、反応が感じられた。

菅原：もし紅南小学校から花川北中学校へ進学する子どもがいて、小学校・中学校で同じテーマの授業を受ける機会があったら、小学校、中学校、といった進学に合わせて、発達段階に応じて「心のおみやげ」が残るようなプログラムがあると良い。成長して器用になったり、できるようになることが増えていたりするので。また、授業を受けた中学生が、今度は小学生に教えられるような繋がりができるとよい。

村山：この 2 校で実施した理由を教えてください。

荒山：今回が初めてなので、まずは石狩紅葉山 49 号遺跡に近い 2 校で実施した。

村山：以前、市民団体の事業で小学生を対象に話をしたときは、参加した子どもの数が少なくてがっかりしたことがあった。それに対して 1 月に樽川中学校で 2 時間ほど話をしたが、学校の授業としての取り組みだったため、百何十人の生徒が参加し、しかもピシッと聴いていた。両者の差は非常に大きい。学校

や教育委員会の支援によって実施できると、効果がある。

菅原：このような事業に参加した子どもが楽しそうにしていたら、その親も喜び、興味を持つ。アピールしてほしい。

菅原：「プロジェクトM:自由研究応援」に参加していたのはどのような親子か。

志賀：親子 2 組で、1 組はよく自然関係のイベントに参加している親子。

加藤：この事業は私もボランティアで参加したが、開催日がお盆だったので日が悪く、参加人数が少なかった。

村山：日程の選定は重要。また、親子の目にもっと触れるような情報発信がされると良い。

菅原：自然系の団体が発行している定期刊行物に、札幌周辺市町村で開催される自然観察系の行事の一覧が掲載されている。そのようなものに掲載してもらうと効果的ではないか。

村山：学校が発行する夏休みのお知らせなど、子どもが見るようなものの片隅に載せてもらうとよいのではないか。

志賀：数年前から「いしかり館ネットワーク」（館ネット、石狩市の社会教育関連施設の連携）で、（資料館も含む）各館の夏休みのイベントをまとめて掲載したリーフレットを作っている。夏休み前に市内全小学校の 4～6 年生全員に配布している。が、さらに工夫が必要と思われる。

菅原：学校の予定と各館の予定が一覧になっていて、まとめて見比べることができるが良い。

村山：図書館を会場にしているサイエンス・アイ（石狩在住の元大学教員たちによる科学実験教室）も、参加しているのはほとんど札幌から来た子どもたち

だそうである。市内の学校ともっと連携できると良い。

菅原：子どもと大人との年齢差交流ができるような「生涯学習の中の学校教育」を期待する。

(2) 平成 27 年度文化財関係事業について（予算概要、事業計画）
（事務局より報告。内容は配布資料を参照）

菅原：「鮭の博物誌」は、執筆者の構成などは決まっているのか。

工藤：執筆者はこれから決定されていく。候補のリストアップは進んでいる。

百瀬：「骨格標本をつくる」は、今年度は「サケ骨格」もやっていたが、平成 27 年度は「チキン」だけ開催するのか。

志賀：サケなど魚の骨格標本製作は難しいので、来年度は簡単なチキンのみにした。今後、「上級者向け」といった形で開催しようと考えている。

村山：チキンなどは、講座開催時には実際に食べるのか。

志賀：講座として、食べるところから始める。普段食べているありふれたものの中にも、生命の進化の歴史が隠されていることに気づいてもらうため。

菅原：学校への出張授業、平成 27 年度に実施する学校は決まったか。それとも平成 26 年度と同じ学校で実施するのか。

荒山：26 年度とは別の学校で実施する予定で検討中である。

菅原：先ほど図書館（※本会議の会場）エントランスに、資料館などの事業紹介の掲示板があるのに気づいたが、あれはいつからあるのか。

志賀：館ネットの取り組みとして、数年前から各館用の掲示板を設置している。

同様な掲示コーナーは他の館にも設置している。

菅原：たとえば道立北方民族博物館は、子ども向けのイベント企画が上手である。参考にさせていただくと良い。また、高校生の授業で「火起こし体験」をさせたことがあるが、雪の中でやらせるなど困難が伴うほど、成功して火が付いたときには狂喜乱舞する。

村山：今後も子どもたちが感動する場面を作っていっていただきたい。

3. 協議：諮問案件の答申について

「石狩紅葉山 49 号遺跡出土の木製品」の市指定文化財指定について
(事務局より本件についてのこれまでの経緯の説明。(省略))

※第 1 回の審議会における三浦委員（※今回は欠席）からの質問について：

質問「縄文時代の木製品が発見されている他市町村における指定状況について教えてほしい」

荒山：調べた結果、北海道内において、縄文時代の木製品（漆製品を除く）が指定文化財にされている事例はないようである。

村山：答申するにあたり、課題が 2 つある。1：指定範囲（対象として想定しているのは木製品 18 点）は十分かどうか。資料点数を増やすことを前提に時間をかけて再検討するか、まず 18 点を先に指定し後に相応しいものを追加する形にするか。2：対象とされている資料の名称（発掘調査報告書での名称をそのまま使用）は、指定文化財の名称として適切かどうか。いずれもこれまでに小杉委員（※今回は欠席）から出された意見。まず、指定範囲については、どうか。

加藤：18 点という点数は増やさざるを得ないのでは。

宮野：とりあえずは 18 点で指定するほうが良いのでは。

百瀬：小杉委員としては、18 点から増やすとして、何点くらいを想定している

のでしょうか。

工藤：具体的な資料を挙げているわけではなく、「河川漁労関係だけでなく生活に関連した資料なども考慮する必要がある」というような趣旨。

村山：たとえば杭など 1 本ずつを 1 点として考えたほうがいいのか、1 組で 1 点と考えたほうがいいのか。木製品に限定するかどうか、しかしそうすると「クマの足跡」などは入れられない。

百瀬：一から再検討するか、後から追加する形にするか、どちらがスムーズに進むか。

工藤：答申の期限は設定していないのでどちらにしても差し支えはないが、再検討するとなると新たに時間が必要だろう。

村山：資料の名称の問題については、ご意見はあるか。

菅原：指定文化財の目録に記載する名称は、学術用語でないといけないのか。

工藤：指定においては、必ずしもその必要はない。

村山：どちらにしても、これらの資料を市指定文化財に指定する、という方向については問題ないか。

一同：賛成。

百瀬：資料の名称を変えたとしたら、答申までに新しい名称が決まらなければいけないか。

工藤：審議会から答申を出していただいてから、実際に教育委員会が指定するまでの間に決まれば良い。

村山：発掘調査の時にはまだ不明な点が多々あるので、指定されて残ることを考えるなら、この段階でなるべく正しい名称になっていることが望ましい。報道時には名称が流れて広まってしまうので、配慮が必要。

菅原：名称を変えるということは、発掘調査の成果としての名称も変わるのか。

工藤：発掘調査報告書の名称が変わるということはない。あくまでも指定文化財としての名称のことである。

加藤：それぞれの遺物の縄文時代の使用方法は、現代人の推測であって、確実なものではない。形状だけを現すような例えば「舟形…」 「…浅鉢」というような名称にとどめて、あとは見る人に考えさせるほうが、ロマンがあって良いと思う。

宮野：「片口容器」と聞くと、ソースか何かを注ぐような、尖った部分があるような形状をイメージするが、実際の形状はそうではなく、違和感がある。

菅原：本当に柄杓として使用されたか、ということは、わからない。展示の解説などの際に、解釈として話すのは良いが。

村山：指定の名称としては、意味のわかる名称になると良い。

みなさんのご意見をまとめると、まず 18 点で指定して、その後に必要な資料を追加する、という流れ。名称については 18 点の指定までに適切な名称を事務局で検討する。この方向で良いか。

一同：賛成。

4. その他・部長あいさつ（省略）

以上

議事録を確認しました。

平成 27 年 3 月 20 日
石狩市文化財保護審議会

会長 村山耀一